

# 二人称代名詞「あなた」「あんた」 「おまえ」「きみ」について

加藤 恵梨

## 要 旨

本研究の目的は、二人称代名詞「あなた」「あんた」「おまえ」「きみ」を『日本語日常会話コーパスモニター公開版』によって調査し、現代日本語の話しことばにおける4語の使用者数・使用回数および使用対象を明らかにすることである。調査の結果、4語の中で「あなた」の使用者数が最も多かったが、全体的に4語の使用者数および使用回数は少なかった。また、男女別にみると、男女間で4語の使用者数・使用回数および使用対象に大きな違いはなかった。さらに、先行研究で相手への指示・批判として「あなた」が使われることが多いと指摘されているが、今回の調査では多くみられなかった。

キーワード：あなた、あんた、おまえ、きみ、『日本語日常会話コーパスモニター公開版』

## 1. はじめに

本研究は、二人称代名詞「あなた」「あんた」「おまえ」「きみ」を調査対象とし、現代日本語の話しことばにおいて、誰が誰に対してそれらの語を使っているのかを『日本語日常会話コーパスモニター公開版』（以下、『CEJC モニター公開版』）をもとに調査し、明らかにすることを目的とする。

## 2. 先行研究の記述とその検討

### 2.1 「あなた」の使い方の制約

「あなた」についての先行研究は多く存在する（鈴木1973、小林2016、米澤2016など）。多くの先行研究で、「あなた」の使用には制約があることが指摘されている。森田（1989：66）も「あなた」について「一人称の『わたし』に対応する二人称の代名詞として最も一般的な語であるが、英語の you など

と違って、そのわりに使用の場と相手には制約があり、使用の幅はあまり広くない」と述べている。

## 2.2 「あなた」に関する日本語母語話者の使用意識

米澤（2016）は、「あなた」に関する日本語母語話者の使用意識をアンケートによって調査し、聞き手の社会的立場が上の場合（両親、兄姉、年上の親戚、目上の知人、先生、上司）はほとんど使用されず、対下位者（弟妹、年下の親戚、年下の知人、自分の子供）・対同等者（親しい友人、配偶者、恋人）の場合でも「まったく使わない」という回答の方が多かったと述べている（pp. 68-70）。また「あなた」の使用は、相手との社会的関係によってよりも、状況や場面によるところが大きく、上位者に使う場合には「喧嘩や相手を非難するとき」という答えが多数であり、下位者に使う場合には「アドバイスをするとき」が最も多く、同等者に使う場合には「親しみをこめて使う」という回答が多かったと記述している（pp. 71-72）。さらに、20代30代既婚女性で、夫に使うと答えた回答者はいなかったということも述べている（p. 69）。

## 2.3 『談話資料 日常生活のことば』にみられる「あなた」「あんた」「おまえ」「きみ」

小林（2016）は、『談話資料 日常生活のことば』の資料（以下【日常】）にみられる「あなた」「あんた」「おまえ」「きみ」について、各年代・性別の話者ごとに使用者数・用例数と、どういう相手に対して用いられているかを整理している。なお、小林（2016）は発話の中で発話者が直接に目の前にいる聞き手を指したり、呼んだりする語のみを考察対象とし、対称ではあっても、発話者が他者ないし自分のことばを引用し、その中に呼称を交える場合は考察の対象外としている（pp. 14-15）。調査の結果、4語の使用の特徴について次のように記述している。

まず、「あなた」の使用は11話者22例あり、すべての年代の話者で家族・親族内の年下のものに用いられているほか、部下、弟子など社会的地位が下

のものに対して用いられている。また、「あなた」には相手への指示・批判などの文脈で用いられているものが目立つ (pp. 17-19)。次に、「あんた」の使用は5話者28例あり、いずれも家族・親族間で用いられている。その出現には①年長の母や叔母が年少の娘や甥を呼んだ例、②60代の夫が同じ60代の妻を呼んだ例、③関西弁話者の90代の女性が70代の義妹と話す例の3つのタイプがあり、③が28例中21例と最も多い (p. 21)。続いて、「おまえ」の使用は7話者8例あり、すべて40代以下で1例を除き男性である。相手はすべて同年代以上であり年下を呼んだ例はなく、8例中6例までが家族・親族ではない男性の友人を呼んでいるのも他の語と異なる (p. 22)。さらに、「きみ」の使用は4話者8例あり、このうち60代男性が娘とその夫の2人を呼んだ1例を除く3話者7例は同一の場面で出現している。発話者はいずれも女性である。40代の妻が同年代の夫を呼んでいるもののほかは、祖母、叔母、母親が一家で最年少の10歳の少年を呼んでいるものである (p. 24)。これらの「きみ」は年の離れた若い相手 (少年) に、冗談混じりながら揶揄や非難をこめるような文脈で使われている (p. 25)。

上の先行研究の記述をふまえ、以下では『CEJC モニター公開版』をもとに「あなた」「あんた」「おまえ」「きみ」の各年代・性別の話者ごとの使用者数・使用回数と、使用対象を調査する。なお、本稿では小林 (2016: 14-15) と同様、発話の中で発話者が直接目の前にいる聞き手を指したり、呼んだりする語のみを考察対象とし、発話者が他者ないし自分のことばを引用し、その中に呼称を交える場合などは考察の対象外とする。また、「あなた」「あんた」「おまえ」「きみ」が「あなたたち」といった複数形で用いられているものも含めて調査する。

### 3. 『CEJC モニター公開版』について

本稿で資料として用いる『CEJC モニター公開版』の特徴について概観する。『CEJC モニター公開版』には、2018年3月の段階で収録・一次転記が終了した協力者の中から、性別・年齢のバランスを考慮して選ばれた協力者20名について、個人密着法で収録した一人平均2.5時間、計50.3時間、セッ

ション116、会話数126、延べ話者数390名、異なり話者数237名、計609,327語（短単位）の会話が含まれている（小磯ほか2019a：367）。話者の年齢・性別ごとの話者数・発話時間・語数は表1の通りである。

表1 年齢・性別ごとの話者数・発話時間・語数

年齢	男性				女性				計			
	延べ話者数	異なり話者数	発話時間	語数(千語)	延べ話者数	異なり話者数	発話時間	語数(千語)	延べ話者数	異なり話者数	発話時間	語数(千語)
10歳未満	9	4	0.5	4.8	3	2	0.2	1.8	12	6	0.6	6.5
10代	19	8	1.3	19.3	4	4	0.3	3.5	23	12	1.6	22.8
20代	31	20	4.0	60.3	28	14	3.1	41.2	59	34	7.0	101.5
30代	23	15	2.8	37.2	37	19	5.1	64.4	60	34	7.8	101.6
40代	30	16	3.3	44.4	51	31	7.6	97.0	81	47	10.8	141.4
50代	25	14	2.3	32.1	44	30	5.9	81.7	69	44	8.2	113.8
60代	19	11	1.6	23.5	24	17	3.2	38.5	43	28	4.8	62.0
70代	23	17	2.5	36.1	9	7	0.9	10.8	32	24	3.4	46.9
80歳以上	4	3	0.2	1.9	6	4	0.6	6.8	10	7	0.7	8.7
不明	0	0	0	0	1	1	0.2	2.0	1	1	0.2	2.0
計	183	108	18.4	259.4	207	128	26.9	347.7	390	237	45.3	607.1

(小磯ほか2019b：22の表3.2)

『CEJC モニター公開版』の話者の年齢・性別に関する特徴をみると、性別については男女の偏りがなく（延べ話者数で見ると、女性54%、男性46%）が、年齢について、成人男性はバランスよく収録できているが、女性に関しては40代・50代の話者が多く60代・70代が少ない。また、未成年者、特に女性については話者数がかなり少ない（小磯ほか2019a：369）。

#### 4. 『CEJC モニター公開版』における「あなた」について

「あなた」は36名に使われており、使用回数は87回である。そのうち、発話者が「あなた」を目の前にいる聞き手を指したり、呼んだりする語として用いているのは26名67回である。『CEJC モニター公開版』の異なり話者数は237名、総語数は609,327語（短単位）であることからすると、非常に少ない数である。次に男女別に使用者数・使用回数と、使用対象をみると、表2-1と表2-2のようであった。女性の使用が17名32回、男性の使用が9名35回であり、女性の使用者数の方が多い。この結果は、小林（2016：17）の

【日常】での調査結果と同じである。

表 2 - 1 女性が対称詞として「あなた」を使っている場合

	話者 I D	年齢	回数	相手
1	K003	20-24歳	2	母 (50-54歳)、友人女性 (20-24歳)
2	T009	20-24歳	2	大学の後輩女性 (20-24歳)
3	K004	40-44歳	1	息子 (10-14歳)
4	T011	40-44歳	1	姪 (0-4歳)
5	T007_015	45-49歳	2	自身の講座の受講生の女性 (45-49歳)
6	K002	50-54歳	1	娘 (15-19歳)
7	K003_003	50-54歳	1	娘 (20-24歳)
8	K004_017	50-54歳	2	同僚女性 (50-54歳)
9	T009_002	50-54歳	3	夫 (50-54歳) 2回、娘 (20-24歳)
10	T015_041	50-54歳	1	息子 (10-14歳)
11	C002	55-59歳	1	カーナビ
12	K001_003	55-59歳	5	友人女性 (35-39歳)
13	T004	60-64歳	1	夫 (60-64歳)
14	T013_001	60-64歳	4	夫 (65-69歳)
15	T016_004	65-69歳	1	娘 (35-39歳)
16	C001_007	70-74歳	2	夫 (70-74歳)、娘 (40-44歳)
17	T009_001	80-84歳	2	娘 (50-54歳)

表 2 - 2 男性が対称詞として「あなた」を使っている場合

	話者 I D	年齢	回数	相手
1	C001_005	35-39歳	1	同僚女性 (40-44歳)
2	T005	35-39歳	1	娘 (0-4歳)
3	T003_003	40-44歳	2	妻 (35-39歳)、息子 (5-9歳)
4	T011_001	45-49歳	2	妻 (40-44歳)
5	T007_006	50-54歳	1	妻 (40-44歳)
6	T015	50-54歳	1	従業員女性 (25-29歳)
7	T013	65-69歳	25	妻 (60-64歳)、同僚男性 (55-59歳)、女子学生 (20-24歳) 2回、友人女性 (45-49歳) 2回、友人男性 (65-69歳) 10回、大学の先輩男性 (65-69歳) 9回
8	T004_008	70-74歳	1	友人女性 (60-64歳)
9	T007	70-74歳	1	妹 (65-69歳)

まず女性について年代別にみると、20代が2名（4回）、40代が3名（4回）、50代が7名（14回）、60代が3名（6回）、70代が1名（2回）、80代が1名（2回）用いている。使用対象は主に家族・親族内の年下のもの、同年代以下の友人であり、特に40代以上の女性が子供に多く用いているのが特徴的である。また、20代と40代の女性は大学の後輩や自身の講座の受講生といった社会的地位が下のものに対して用いているが、相手はすべて女性である。さらに、50代以上の4名（5回）が夫に対して用いているが、40代以下では用いていない。米澤（2016：69）は、20代30代既婚女性の中で夫に「あなた」を使うと答えた回答者はいなかったと述べていたが、『CEJIC モニター公開版』では20代から40代の既婚女性が夫に対して「あなた」を使っていないことが分かる。加えて、次の（1）のように、20代女性が母親に対して「あなた」を使っているものもみられる。

（1）娘：じゃお弁当作ってってくれるの？三人分だから作れるよね。

母親：まあ どうだろうね。元気だったら。

娘：つてか滯さんの作るんだね。あなた。

母親：あ。そう そう そう。（会話 I D K003\_003）

（1）は20代前半の娘が50代前半の母親にお弁当を作るのかを尋ねる際、母親を「あなた」と呼んでいる。米澤（2016：68-70）の分類では母親は上位者に入るが、（1）の「あなた」は「喧嘩や相手を非難するとき」に使われているのではない。単なる呼びかけである。このような例はいくつかあるが、多くは同年代以下の親密な相手に対して使われている。

次に男性について年代別にみると、30代が2名（2回）、40代が2名（4回）、50代が2名（2回）、60代が1名（25回）、70代が2名（2回）用いている。男性では30代後半以上の使用例しかみられない。仲の良い友人にも用いられているが、主に家族・親族内の年下のもの、社会的地位が下のものに対して用いている。また、40代から60代では4名（4回）が妻に対して用いている。夫が妻を「あなた」と呼んでいる人の数と、妻が夫を「あなた」と

呼んでいる人の数は同じである。夫が妻を「あなた」と呼んでいる例には次の(2)のようなものがみられる。(2)は40代後半の夫が40代前半の妻のことを「あなた」と呼んでいる。

(2) 妻：なます食べて。なますさっきからあたしばかり食べてるよ。

夫：うん。そこに置いてあるからね。あなたのもんだってみんなもう勘違いしてる。(会話 ID T001\_013)

小林(2016:17)は、【日常】では「あなた」は40代以上の話者にのみ使われ、30代以下の使用例はみられないと指摘しているが、『CEJC モニター版』では30代以下の使用もみられる(20代女性2名(4回)、30代男性2名(2回))。また、小林(2016:19)は【日常】において、「あなた」が相手への指示・批判などの文脈で用いられているものが目立ち、22回中8回使われていると指摘している。『CEJC モニター公開版』において相手への指示・批判として使われているのは67回中7回であり、多く使われていない。相手への指示・批判として使われている例には次の(3)がある。

(3) 母親：だから沙織がそれがキャンセル料がかかるの？って沙織自身が聞かなきゃいけないと思う。もうちょっと待ってって。

娘：うん。

母親：で沙織がイエスってゆったんだったらあなたがもう五千円払うしかない。(会話 ID K002\_007)

(3)の会話で、50代前半の母親は10代後半の娘のことを何度も名前(沙織)で呼んでいるが、下線部では「あなた」が使われている。ここでの「あなた」は単なる娘に対する呼びかけではなく、五千円を支払うのは他の人ではなく、沙織自身であるということを強調し、指示するために用いられている。

## 5. 『CEJC モニター公開版』における「あんた」について

「あんた」は29名に使われており、使用回数は43回である。そのうち、発話の中で発話者が目の前にいる聞き手を指したり、呼んだりする際に使っているのは、17名（27回）である。また、小林（2016：21-22）は、『日常』における「あんた」の使用例全28例のうち、21例が1名の関西弁話者によるものであると指摘している。『CEJC モニター公開版』における「あんた」の使用者の出生地と居住地をみると、出生地あるいは居住地が関西圏であるのは、出生地が奈良県で東京在住者の女性1名と、出生地が和歌山県で東京在住者の女性1名のみであり、他にはいなかった。

次に男女別にみると、女性は表3-1のように10名（16回）、男性は表3-2のように7名（11回）使っており、使用者は女性の方が多い。また、前節でみた「あなた」と比べると、「あんた」の方が使用者数・使用回数が少ないことが分かる。

表3-1 女性が対称詞として「あんた」を使っている場合

	話者 I D	年齢	回数	相手
1	T009	20-24歳	1	飼いネコ
2	T003	35-39歳	3	息子（5-9歳）
3	T003_017	40-44歳	1	息子（5-9歳）
4	T011	40-44歳	3	息子（10-14歳）
5	K003_003	50-54歳	2	娘（20-24歳）
6	T009_002	50-54歳	1	飼いネコ
7	T013_014	55-59歳	1	姉（55-59歳）
8	T016_004	65-69歳	1	孫（男）（10-14歳）
9	C001_007	70-74歳	1	娘（40-44歳）
10	T011_013	70-74歳	2	息子（45-49歳）、孫（男）（10-14歳）

表3-2 男性が対称詞として「あんた」を使っている場合

	話者 I D	年齢	回数	相手
1	T003_001	5-9歳	1	弟（5-9歳）
2	T013	65-69歳	3	友人男性（65-69歳）
3	T013_022	65-69歳	2	大学の後輩男性（65-69歳）

4	T005_026	70-74歳	1	知り合いの男性 (35-39歳)
5	T005_051	70-74歳	1	知り合いの男性 (35-39歳)
6	T007	70-74歳	2	地域活動の仲間の女性 (65-69歳)、娘 (40-44歳)
7	T013_018	70-74歳	1	趣味の仲間の女性 (45-49歳)

まず女性について年代別にみると、20代が1名（1回）、30代が1名（3回）、40代が2名（4回）、50代が3名（4回）、60代が1名（1回）、70代が2名（3回）用いている。【日常】と異なり、『CEJC モニター公開版』では30代以下の使用もみられる。使用対象は飼いネコを含めた家族のみである。1例、姉に対して使っているものがあるが、それ以外は家族・親族内の年下のものに対して使っている。この点は【日常】と同様である。また、『CEJC モニター公開版』では、27回中8回が注意したり、しかったりするときに「あなた」を使っている。この8回のうちの6回は女性によるものであり、30代から70代の女性が主に娘や息子に対して使っている。娘や息子の年代は中学生以下の児童だけではなく、次の（4）のように、70代の母親が40代の娘に注意する際に使っているものもある。

（4）母親：ん。あなたこれスイッチ入れてないんじゃない？そんなことない？（会話 ID C001\_007）

（4）は娘がスイッチを入れていないのではないかと思ひ、娘に注意するときに「あなた」と呼びかけている。それに対して、次の（5）は（4）と同一人物である母親が、40代の娘に「あなた」と呼びかけている。このように、注意する意図がなく、単に呼びかけるときには「あなた」が用いられている。

（5）母親：ああ。ゆった。あなたに話したね。（会話 ID C001\_007）

次に男性について年代別にみると、10歳以下が1名（1回）、60代が2名（5回）、70代が4名（5回）用いている。10代以下の1名を除くと、60代から70代に集中している点が女性の場合と異なる。また、男性がどのような相

手に「あんた」を使っているのかをみると、多くが年下の知り合いに対してである点も女性と異なっている。その場合の多くは、次の（6）のように単なる呼びかけであり、注意などではない。

（6）男性：あれ？そうか。あんたも三杯目か。俺まだ二杯。(L)<sup>(1)</sup>

女性：もういいよ。そんな飲み放題関係ない。(会話 ID T013\_015)

（6）は70代前半の男性が趣味の仲間である40代後半の女性に呼びかける際に「あんた」を使っている。

一方、男性が「あんた」を注意として使っているのは、小学生の兄が小学生の弟に対して使っている次の（7）と、70代前半の男性が地域の会の仲間である60代後半の女性に対して使っている次の（8）の2例のみである。

（7）兄：あんたはなんちゅう取り方してんだよ。(会話 I D T003\_019)

（8）女性A：あっ。なんで簡単なの。そんなに。

男性：だってこれ簡単なんだもん。

女性B：手前から ちょっと白が入っちゃっても。

男性：あんたが難しくしてる。

女性C：(L) (会話 ID T007\_007)

（7）は兄弟がキャッチボールをしている場面である。弟がなかなかボールを取れず、変わった取り方をしていることを注意する際、兄が弟を「あんた」と呼んでいる。（8）は地域の会の仲間が事前研修を受けている場面である。テープがなかなか剥がれない女性Aに、男性がテープの剥がし方を教え、女性Aのやり方について「あんたが難しくしてる」と批判的に述べている。しかし、その発言の後に笑いが起きているように、和やかな雰囲気ではあり、批判的な発言ではあっても、相手を咎めているのではない。

## 6. 『CEJC モニター公開版』における「おまえ」について

「おまえ」は41名が使っており、使用回数は162回である。そのうち、発話者が目の前にいる聞き手を指したり、呼んだりする語として使っているのは22名102回である。「おまえ」は4語の中で使用回数が最も多い。また、男女別の使用人数および使用回数をみると、表4-1と表4-2のようであった。女性は5名（23回）、男性は17名（79回）であり、男性の使用者は女性の3倍である。

表4-1 女性が対称詞として「おまえ」を使っている場合

	話者 I D	年齢	回数	相手
1	K003	20-24歳	3	友人女性（20-24歳）
2	T009	20-24歳	1	友人男性（20-24歳）
3	T016_001	35-39歳	1	息子（10-14歳）
4	T011	40-44歳	2	息子（10-14歳）、ペットのインコ
5	T010_001	50-54歳	16	息子（20-24歳）

表4-2 男性が対称詞として「おまえ」を使っている場合

	話者 I D	年齢	回数	相手
1	T003_002	5-9歳	1	兄（5-9歳）
2	T011_002	10-14歳	9	弟（10-14歳）
3	T011_003	10-14歳	2	兄（10-14歳）
4	K004_003	15-19歳	1	弟たち（15-19歳と10-14歳）
5	T009_018	20-24歳	1	恋人（20-24歳）
6	T010_002	20-24歳	18	弟（20-24歳）
7	T010	20-24歳	7	友人男性（20-24歳）
8	T006_004	25-29歳	16	友人男性（25-29歳）
9	T006	25-29歳	1	友人男性（25-29歳）
10	T005_001	35-39歳	7	知人男性（35-39歳）
11	T005	35-39歳	1	娘（0-4歳）
12	T005_035	35-39歳	1	友人男性（35-39歳）
13	T016	40-44歳	1	息子（10-14歳）
14	T011_001	45-49歳	6	息子（10-14歳）
15	T015	50-54歳	1	友人女性（50-54歳）

16	T013	65-69歳	5	妻 (60-64歳)、友人男性 (55-59歳)、友人男性 (65-69歳) 2回、大学の先輩男性 (65-69歳)
17	T013_022	65-69歳	1	大学の後輩男性 (65-69歳)

まず女性について年代別にみると、20代が2名（4回）、30代が1名（1回）、40代が1名（2回）、50代が1名（16回）用いている。使用相手は、20代では次の（9）のように同じ年の友人であり、30代から50代ではペットのインコを除くと、次の（10）のように息子である。

（9）A：なんで？お前なんでそんな裏切り行為をしようとしてんの。

（会話 ID K003\_012b）

（10）母親：おにぎり持って。お兄ちゃんにおにぎりあげたんだよ。だからあーお前の分もあったんだけど。（会話 ID T010\_002a）

（9）は仲の良い20代前半の女性二人が、好きな球団について談笑している場面である。その球団のリストバンドを友人が持ってきていることについてコメントする際、Aは友人のことを「おまえ」と呼んでいる。ここでは批判的なニュアンスで「おまえ」を用いているが、本当に批判しているのではない。気心の知れた相手と呼ぶ際に「おまえ」が使われている。（10）は50代前半の母親が20代前半の息子を「おまえ」と呼んでいる。この母親には息子が二人いる（いずれも20代）が、息子たちを呼ぶときには「おまえ」が用いられている。そのため、一人で「おまえ」を16回用いる結果となっている。

次に男性について年代別にみると、10歳以下が1名（1回）、10代が3名（12回）、20代が5名（43回）、30代が3名（9回）、40代が2名（7回）、50代が1名（1回）、60代が2名（6回）用いている。使用相手については、10代以下では兄や弟、20代では主に同じ年の友人男性であり、その他は弟や恋人である。30代では同じ年代の知人・友人男性と娘に対して、40代では息子に対して、50代では仲の良い友人女性に対して、60代では同年代あるいは年下の友人男性のほか、妻に対しても用いている。

【日常】では「おまえ」の使用はすべて40代以下で、同年代以上の相手に使っている点が他の語と異なっている（小林2016：22）。それに対し、『CEJC モニター公開版』では50代以上の使用もみられ、男性では同年代の友人男女だけではなく、年下の友人男性に対しても用いられている。さらに、『CEJC モニター公開版』では「おまえ」は友人・知人に対してだけではなく、親から息子に対してや、兄弟間で使われている点も【日常】と異なっている。

### 7. 『CEJC モニター公開版』における「きみ」について

「きみ」は14名に使われており、使用回数は32回である。そのうち、発話者が目の前にいる聞き手を指したり、呼んだりする際に使っているのは、11名29回である。使用者数と使用回数は4語のなかで最も少ない。また、男女別の使用人数および使用回数は、次の表5-1と表5-2のようであった。女性は5名17回、男性は6名12回である。【日常】では女性の使用者数の方が多いが（小林2016：24）、『CEJC モニター公開版』では男性の方がわずかに多い。

表5-1 女性が対称詞として「きみ」を使っている場合

	話者 I D	年齢	回数	相手
1	T009	20-24歳	2	飼猫
2	K004	40-44歳	12	息子（10-14歳）7回、息子（15-19歳）5回
3	T011	40-44歳	1	息子（10-14歳）
4	T009_002	50-54歳	1	娘（20-24歳）
5	T010_001	50-54歳	1	息子（20-24歳）

表5-2 男性が対称詞として「きみ」を使っている場合

	話者 I D	年齢	回数	相手
1	K004_001	10-14歳	1	母（40-44歳）
2	T016_002	10-14歳	1	祖母（65-69歳）
3	T011_001	45-49歳	5	息子（10-14歳）
4	T009_017	50-54歳	2	妻（50-54歳）

5	T013	65-69歳	1	教え子である女子学生（20-24歳）
6	S001_006	75-79歳	2	息子（50-54歳）、妻（75-79歳）

まず女性について年代別にみると、20代が1名（2回）、40代が2名（13回）、50代が2名（2回）用いている。使用相手については、20代の1名が飼い猫に対して用いているのを除くと、すべて母親が10代から20代の子供に対して用いている。その例には次の（11）がある。

（11）母親：雨強くなってきたね。君たち午後自転車で行くつもりじゃないでしょうね。

息子：徒歩。

母親：よかった。（中略）

息子：雨強いのに遊ぶなんて何考えてるんだか。

母親：それあなたでしょうが。（会話 I D K004\_011）

（11）では、「きみたち」と「あなた」がともに用いられている。40代の母親が中学生の息子に、雨の中、「自転車で行くつもりじゃないでしょうね」と確認するときには「きみたち」を用いており、その後で、息子が言った「雨強いのに遊ぶなんて何考えてるんだか」ということばに反論するときには「あなた」を用いている。「あなた」には相手への指示・批判などの文脈で用いられることがあるが、「きみ」はそのような文脈では使われておらず、単なる呼びかけとして使われている。

次に男性について年代別にみると、10代が2名（2回）、40代が1名（5回）、50代が1名（2回）、60代が1名（1回）、70代が1名（2回）用いている。男性においても、10代の使用がみられる。しかし、次の（12）と（13）のように、10代の「きみ」の使用は一般的な使い方とは異なる。

（12）母親：あっ。そうだ。まだ予熱にかけちゃいけないんだ。だってチョコを電子レンジで溶かす計画なんだから。

息子：おー。君だったのかね。(会話 I D K004\_011)

(13) 孫：小学生一年生ってすごい言い方ね。

母親：足の引っ張り合い。

父親：うん。

孫：面白いね。君。(会話 ID T016\_004b)

(12) は中学生の息子が推理小説の主人公になりきり、主人公がいつも言っているような口調で40代の母親のことを「きみ」と呼んでいる。(13) は60代後半の祖母が「小学生一年生」と言ったのに対し、10代前半の孫が「面白いね。君。」と言っている。その発言の後に母親が「普段ゆわれているから」と述べているのであるが、ここでは普段大人たちが自分に対して言っている「面白いね。君。」ということばを祖母にそのまま用いたのだと考えられる。

さらに、女性では主に母親が息子や娘に対して使っていたが、男性ではそれ以外に、50代と70代では妻に対して、60代では教え子である女子学生に対して使っている。このように、男性の方が女性よりも使用対象が広い。

## 8. まとめ

本研究では二人称代名詞「あなた」「あんた」「おまえ」「きみ」を調査対象とし、現代日本語の話しことばにおいて、誰が誰に対してそれらの語を使っているのかを『CEJC モニター公開版』をもとに調査した。調査の結果を小林(2016)で指摘されている【日常】との結果と比較しながら以下にまとめる。

まず「あなた」について、【日常】と『CEJC モニター公開版』で共通しているのは、4語の中で最も使用者が多い点、女性の使用者の方が多い点、家族・親族内の年下のものや、同年代以下のものに対して使っている点である。一方で異なるのは、【日常】では40代以上の男女が用いているのに対し(小林2016: 17)、『CEJC モニター公開版』では20代以上が用いているように、使用する年代の範囲が広がっている点である。また、相手への指示・批判として使われている回数は『CEJC モニター公開版』の方が少ない。これ

らのことから、現代では「あなた」は年下の親しい相手と呼ぶときのことばであるという意識が広まってきているとすることができる。

次に「あんた」について、【日常】と『CEJC モニター公開版』で共通しているのは、女性の使用者の方が多い点のみであり、その他は異なっている。【日常】では40代以上の男女が家族・親族に対して使っているが（小林2016：21）、『CEJC モニター公開版』では10代から使用しており、使用相手は男女によって異なる。女性は家族に対してのみ使っているが、男性は家族だけではなく、年下の知り合いに対しても使っている。さらに、「あんた」について小林（2016：21）は「『あんた』は『あなた』ほどには、あらたまったりよそよそしくはなく、『おまえ』ほどには無遠慮ではない語」と述べている。『CEJC モニター公開版』において、男性は家族や年下の知り合いに親しみをこめて「あんた」を使っている例が多くみられるが、女性は主に子供を注意したり、しかったりするときに使っており、「あんた」が使われる場面も男女によって違いがみられる。

続いて「おまえ」について、【日常】と『CEJC モニター公開版』で共通しているのは、男性の使用者の方が圧倒的に多い点のみであり、その他は異なっている。【日常】は40代以下の男女が同年代以上の人に対して用いているが（小林2016：22）、『CEJC モニター公開版』では50代以上の使用がみられ、年上に対して用いているのは1例のみである。女性は同年代の友人か息子に対して用いており、男性は同年代以下の友人、息子、兄弟に対して用いている。「おまえ」の使用について小林（2016：24）は、「上下よりは親疎の意識によって用いられている」と述べている。しかし、『CEJC モニター公開版』では、主に同年代以下の親しい友人に対してか、親が子供に対して用いていることから、親疎だけではなく、上下関係も意識されているといえる。これは、現代では呼称全般を使うときに上下意識が伴い、社会的立場が上の相手に呼称を使うことに対して抱く抵抗感に基づいていると考えられる。

最後に「きみ」について、【日常】と『CEJC モニター公開版』で共通しているのは、使用者が4語の中で最も少なく、使用対象は主に年の離れた家族・親族内の若い相手という点である。一方で、異なっている点もある。

【日常】の使用者は主に40代以上の女性であり、家族・親族間のみで用いられている（小林2016：24）。それに対し、『CEJC モニター公開版』の使用者は男女ほぼ同数である。女性では1例を除くすべての例で母親が子供に対して使っているが、男性では家族間（息子や妻）以外に、教え子である女子学生に対して使っている。また、小林（2016：25）は【日常】での「きみ」の使用について、「年の離れた若い相手（少年）に、冗談混じりながら揶揄や批判をこめるような文章で使われている」と述べている。『CEJC モニター公開版』では「きみ」は揶揄や批判をこめるような文章で使われていないが、対象が主に年の離れた若い相手である点は【日常】と同じである。

#### 注

(1) (L) は笑いを表している。

#### 参考文献

- 遠藤織枝・小林美恵子・佐竹久仁子・高橋美奈子編（2016）『談話資料 日常生活のことば』ひつじ書房
- 小磯花絵・天谷晴香・石本祐一・居關友里子・白田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝 康晴・西川賢哉（2019a）『『日本語日常会話コーパス』モニター公開版の設計と特徴』『言語処理学会第25回年次大会発表論文集』pp. 367-370 言語処理学会
- 小磯花絵・天谷晴香・石本祐一・居關友里子・白田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝 康晴・西川賢哉（2019b）『『日本語日常会話コーパス』モニター公開版コーパスの設計と特徴』『国立国語研究所「日常会話コーパス」プロジェクト報告書3』国立国語研究所
- 小林美恵子（2016）『『日常生活』の呼称』『ことば』37 pp. 14-32 現代日本語研究会
- 鈴木孝夫（1973）『ことばと文化』岩波書店
- 米澤陽子（2016）「二人称代名詞「あなた」に関する調査報告』『日本語教育』163 pp. 64-78 日本語教育学会
- 森田良行（1989）『基礎日本語辞典』角川書店

関連 URL

コーパス検索アプリケーション『中納言』 (<http://chunagon.ninjal.ac.jp/>)

(かとう えり：大手前大学)

(2019.11.18 受理)